

2 0 2 4 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 溪 仁 会

2024年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

健全で安定した経営「経営の在り方」につきましては、11月頃より特養入居者の入院の増加、12月の感染症対応の影響により、収益減、支出増、利益減の構図が続き、大変厳しい経営状況となりました。そうした中においても介護報酬改定内容を受け、特養とGHによる協力医療機関連携加算の算定をはじめ、高い収益単価の実現がある程度図られました。小規模多機能型事業におきましても、目標としていた登録者上限の29名までには至りませんでした。ようやく安定した運営基盤が図られるまでに至りました。物価高騰のあおりを受け、人件費や資材の高騰の中、社会福祉施設長寿化事業の補助金を活用し、大規模修繕に着手し、住環境の改善に努めました。

人財の確保と成長「福祉人材の在り方」につきましては、年度初めにおいて外国籍（ミャンマー）の特定技能外国人6名を受け入れることとなりました。言葉の壁がありながらも、職員による教育と指導の下、素晴らしい職員の一員となるまで辛抱強く関わっていただいたことに心より感謝申し上げます。しかしながら、職員応募も少なく、更には中堅・リーダー層職員の退職も重なり、積極的なスポットワークの活用に努めるも、根本的な離職防止と派遣職員含めた定着までには至りませんでした。

業務改善と生産性向上「サービスの在り方」につきましては、補助金の活用による新システム及びそれらに付随するICT機器等の導入により、徐々にではありますがペーパーレス化を含め、ICT機器の運用において応用（DX化）が図られてきました。また、2024年度から、より質の高い認知症ケアを目指していく観点から、当ブロックより2名の認知症ケアリーダーを選任し、認知症ケアへの推進と取り組み強化に向けたファシリテーター役をお願いしました。

地域との共生「地域社会への在り方」につきましては、町内会役員による西円山の丘運営推進会議への参画を継続してお願いし、職員による町内会行事への参加を通して、地域共生社会の推進に努めてまいりました。また介護の仕事普及啓発事業として、近隣児童会館や中学校の職場体験、高校に対して介護の魅力等を伝える機会をいただき、専門職としての社会資源を還元しました。また、札幌市より受託している2か所の介護予防センターを中心に、フレイル予防をはじめ、担当地区による相談機能の強化に継続して努めました。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

○「経営改善会議」の開催

・開催頻度：毎月収支確定時に合わせて開催 ※主に特養

・活動状況

生活相談課（毎月の入退居、入院者数等）、健康管理課（入院者の状況、感染・看取り対応等）、生活支援課（職員の状況、業務改善内容等）、栄養管理課（委託先、食事内容等）、生活リハビリ課（加算取得、ICT関連等）についての報告、次月度以降に向けた経営課題の把握と共有

・今後の展開

特養100%稼働と予算収益の達成を目指した行動の確認と職員の離職防止と定着率の向上を目指し、収支差額の確保に努める。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況【合計職員数145名】 ※2023年度末：142名

<特養・短期>【79名】※育児休業中2名

・管理者1名、医師1名（非）、看護職員11名（非4名）、介護職員44名（非10名）、生活相談員2名、

介護支援専門員3名、理学療法士3名、作業療法士1名（非）、管理栄養士3名、施設管理4名、事務職員他6名

<HST>【29名】サービス提供責任者6名（管理者兼務1名）、非常勤ヘルパー23名

<予防C>【4名】相談員4名（管理者兼務1名）

<小多機>【10名】管理者1名、看護職員1名、介護支援専門員1名、介護職員7名

<GH>【23名】計画作成担当者2名（管理者兼務1名）、看護職員1名（非）、介護職員20名（非1名）

○2024年度職員異動状況（派遣職員含む）

・採用：31名【介護職員：28名（うち外国籍6名）、予防C：1名、訪問介護（サ責）1名、管理課員1名】

・退職：33名【看護職員：1名、介護職員：30名、予防C：1名、管理課員1名】

4. 研修参加・実施状況

○内外研修参加・実施状況（法人本部・浜仁会グループ研修含む）：

・外部研修（延参加者73名）：カスタマーハラスメント、北海道抑制廃止、虐待防止、依存症、役職者メンタルヘルス、

認知症ケアリーダー（パーソンセンタードケア）、がんと生きる、外国人労働者雇用労務責任者講習、データ関連WEB研修、SNS勉強会等

・内部研修（延参加者253名）：特養各委員会主催、HST、GHによる虐待防止、事故予防、感染対策、看取り、防火・防犯・防災、BCP、

産業医による心理的安全性研修（20名）・HST～スキルアップ研修等事故・GH～感染対策、接遇等研修実施

○実習等受入実施状況

置戸高校（介護）1名、せいとく1名、西野1名、天使大学（栄養）2名、北大医学部社会医学実習8名、大通高校「介護の仕事」出張講座26名

2024年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>44,165 人</u>	<u>41,985 人</u>
一日平均入所者数	<u>121.0 人</u>	<u>115.0 人</u>
入所待機者	<u>34人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 4.0</u>	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	

【短期入所生活介護：定員14名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>0 人</u>	<u>0 人</u>
一日平均入所者数	<u>0 人</u>	<u>0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>5,958 回</u>	<u>5,335 回</u>
（介護保険外）		<u>4,832 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>17.3回</u>	<u>15.6 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.5</u> （要支援1・2を除く）	

【介護予防センター】 (円山)

延相談件数 50 件

相談内容（重複有）

介護保険制度： 13 件

権利擁護： 0 件

高齢者虐待： 0 件

介護予防： 17 件

その他： 20 件（認知症・心身の健康・・・市保健福祉サービス等）

介護予防啓発普及事業実施件数

実施回数

参加者数（延べ）

介護予防教室 182 回

1,932 人

（以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有）

転倒予防 161 回

栄養改善 84 回

口腔機能向上 93 回

閉じこもり予防 6 回

認知症予防 119 回

疾病予防 1 回

その他の介護予防 26 回（うつ予防、体力測定等）

研修会・講演会・相談会 32 回

213 人

その他 3 回

56 人

広報物発行 12 回

3,603 部

【介護予防センター】 (曙・幌西)

延相談件数 16 件

相談内容 (重複有)

介護保険制度: 5 件
 権利擁護: 0 件
 高齢者虐待: 0 件
 介護予防: 6 件
 その他: 7 件 (心身の健康・市保健福祉サービス等)

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数 (延べ)
介護予防教室	<u>116回</u>	<u>1,775 人</u>
(以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有)		
転倒予防	<u>95回</u>	
栄養改善	<u>4回</u>	
口腔機能向上	<u>69回</u>	
閉じこもり予防	<u>0回</u>	
認知症予防	<u>69回</u>	
疾病予防	<u>2回</u>	
その他の介護予防	<u>11回</u> (うつ予防・体力測定等)	
研修会・講演会・相談会	<u>8 回</u>	<u>45 人</u>
その他	<u>5 回</u>	<u>151 人</u>
広報物発行	<u>14 回</u>	<u>2,643 部</u>

2024年度 事業報告

西円山の丘

【グループホーム：定員27名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>9,740 人</u>	<u>9,597 人</u>
一日平均入所者数	<u>26.7 人</u>	<u>26.2 人</u>
入所待機者	<u>15 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.3</u>	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員24名（通い定員12名、宿泊4名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>8,541 人</u>	<u>6,109 人</u>
※延通い利用者数		<u>2,669 人</u>
※延宿泊数		<u>373 人</u>
※延訪問数		<u>3,067 人</u>
一日平均登録者数	<u>23.4 人</u>	<u>16.7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.7</u>	

2024年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

2024年度においては、向かいの老健の事業廃止といった厳しい現実を目の当たりにし、特に下半期は強い危機感を持ちながら法人経営基本方針を念頭に当施設の抱えている課題の一つひとつ丁寧に解決し、あさがおのコーポレートスローガン実現に向け、介護報酬改定の早期対応など各事業において着実な取組みを行いました。結果として人財面においては、ここ数年離職者が入職者を上回る状況で推移してきましたが、柔軟な働き方への対応や積極的な実習受入等による新卒採用もあり定着率が上昇しました。一方、経営面においては年度当初は各事業好調を維持しましたが、様々な要因も重なり年度末に徐々に失速する結果となり予算目標を大きく乖離する実績となりましたが、法人目標の利益率、人件費率は辛うじてクリアすることができました。その他、サービス面、地域貢献活動等未達成となった内容においては、2025年度も継続して取組みを進めて参ります。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

＜活動状況＞ 施設運営会議（毎月第4木曜日 参加者：管理者・各部署責任者）毎月の経営状況における課題等について協議

○実績（延利用者数 等）

- ・特養：収益達成率95.6% 稼働率93.8% 新規29名、退居28名（うち看取り9名）入院件数44件 延入院日数803日
※前年度比～収益達成率+2.2% 稼働率+3.4% 看取り件数▲1件 入院件数+4件 延入院日数▲92日
ご入居者の状態低下による入院、待機者減少に伴う入居調整等前年度より稼働率改善しましたが、課題の残る結果。
- ・短期：収益達成率71.3% 稼働率45.0% 新規11名
※前年度比～収益達成率▲7.5% 稼働率▲7.5%
週末等短期間利用者が多く、特養内併設のため身体、認知レベル等の差もあり定期利用者の確保が難しく、厳しい結果。
- ・通所：収益達成率96.7% 稼働率82.9% 新規18名、体験42名、中止27名 要介護度比率平均71.3%
※前年度比～収益達成率+0.5% 稼働率+4.1% 新規▲33名、体験▲24名、中止▲9名 要介護度比率+5.4%
年間を通じて各月で不安定さは見られたが、前年度より稼働率は上昇。令和7年1月より定員を40名へ変更。

○加算取得（算定）状況

- ・特養：生産性向上加算Ⅱ・医療機関連携加算Ⅰ（4月より）・感染対策向上加算Ⅰ（10月より）・口腔衛生加算Ⅱ（11月より）
- ・短期：生産性向上加算Ⅱ（4月より）
- ・通所：ADL維持等加算Ⅰ（4月より） その他算定可能な加算は継続算定。

＜2025年度に向けて＞

2025年度は、一定程度の人財確保ができ体制は整えられたため、人財の定着化、個々のレベル向上を図り、経営の安定を図るとともに繰り越し課題の解決に向けた取組み及び関係機関との連携による地域との関係性構築に向けた取組みを行って参ります。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況【合計職員数100名】

特養・短期：管理者1名、嘱託医1名、看護職員7名、介護職員52名（内非常勤12名、派遣3名※外国籍8名）、生活相談員2名、介護支援専門員1名、作業療法士1名、栄養士3名、事務職員6名（内生活相談員兼務1名、施設管理員2名）、介護アシスタント9名

通所：管理者1名、生活相談員1名（介護職員兼務）、介護職員7名（内非常勤3名）、看護師3名（内非常勤2名）、運転手4名、介護アシスタント2名

○2024年度職員採用・退職等状況

採用：18名【介護職員12名、看護師2名（内通所1名）、介護アシスタント1名（札幌市生活困窮者就労訓練事業より）、歯科衛生士1名、施設管理1名、ドライバー1名】

退職：12名【介護職員6名、看護職員2名（内通所1名）、介護支援専門員1名、ドライバー3名】

異動：転入2名【介護支援専門員1名、事務職員1名】、転出2名【介護職員1名、生活相談員1名】

産休：1名、育休：2名

4. 研修参加・実施状況

○内外部研修参加・実施状況（法人本部・浜仁会グループ研修含む）：

外部研修：各階層別（新人・リーダー層 管理職等）、感染管理、コミュニケーション、ハラスメント、健康増進、虐待防止、接遇、職業倫理、認知症ケア学会、地域貢献、外国人労働者雇用、経営協 他 延べ48名

内部研修：法定の感染、虐待、事故、災害に関する研修や褥瘡、認知症等に関する研修 他

○実習等受入実施状況 ※引続き、新規採用を念頭に積極的な受入に努めて対応致しました。

介護福祉士16名（札幌医6名、せいとく5名、大原3名、西野1名、日本医療1名）、管理栄養士2名（光塩短大）、

看護師24名（医療大2名、札幌市立大22名）、作業療法士2名（医療大）、社会福祉士1名（東北福祉大）、

その他5名（あずみ2名、札幌市生活困窮者就労訓練1名、サンシャイン2名）、フィールドスタディ12名（札幌創成高校）等

※2024年度も今後の新規採用を念頭に積極的な受入に努めて対応しました。

2024年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員84名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>30,295 人</u>	<u>28,766 人</u>
一日平均入所者数	<u>83.0 人</u>	<u>78.8 人</u>
入所待機者	<u>17 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.94</u>	
協力医療機関	： <u>1. 南札幌脳神経外科</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 大谷地病院 ※精神科医師療養指導あり</u>	

【短期入所生活介護：定員4名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>916 人</u>	<u>671 人</u>
一日平均入所者数	<u>2.5 人</u>	<u>1.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.2</u> （要支援1・2を除く）	

【通所介護：一般型35名】 ※2025年1月より定員を40名に変更

	目 標	実 績
延利用者数	<u>7,932 人</u>	<u>7,462 人</u>
一日平均利用者数	<u>31.0 人</u>	<u>29.0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

2024年度 事業報告

施設名： 岩内ふれ愛の郷

1. 総括

2023年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け利用者・家族に大変迷惑・不便をお掛けした1年であった。また、施設の老朽化に伴い日常生活にも（特に食事・入浴）支障をきたす事が多かった。そして予想以上に修繕費が掛かった。新型コロナウイルス含めた感染症については通年、感染対策が必要であるためスタンダードプリコーション等の徹底を図っていききたい。

職員確保についても介護職員不足が深刻であるため、昨年に引き続き新たに「技能実習生」2名（ミャンマー）を採用し技能実習生4名を含め外国籍人材6名が勤務。また、新規採用で生活相談員1名を採用する事ができた。2025年度以降も、コミュニティホーム岩内と連携し職員異動及び採用を継続して実施していく。昨年度よりも転倒・転落事故件数が減少した。引き続き効果的な感染予防対策、離職防止対策・業務見直し等を推進していききたい。最終的にはコロナ等の支援金もあり目標でもあった利益率1.2%以上・人件費率65%以下を達成する事ができた。

1. 入所においては一日平均入所者数49.7名とほぼ目標数を達成。
2. 短期入所生活介護に関しては、一日平均入所者数8.6名で目標数を達成する事ができなかったが、今後も老健・居宅（さつき）との連携を図りサービス提供をしていきたい。
3. 4月より介護職員6名正職員に社員区分変更。また、2024年度補助金を活用し「介護職員宿舎」を整備。
2024年4月より職員入居。
4. 2025年度は「ふれあいカフェ（認知症カフェ）」等を定期的の実施し地域との交流を深めていきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

1. コミュニティホーム岩内と合同で実施している「岩内コミュニティの丘運営会議」「プロジェクト会議」を月1回開催し検討課題等を情報共有することで透明性の保持や可視化することができている。
2. 岩内ふれ愛の郷単独で役職者会議・職員全体会議を月1回実施。職員会議では、現場での検討課題を中心に議論。

<成果>

- ・ コミ岩居宅との連携強化により前年度より短期入所生活介護を利用いただくよう対応できた。
- ・ ふれ愛職員会議等で加算算定状況や人件費率及び利益率などの目標数値の達成度確認等、全職員に周知が図れた。
- ・ 昨年より対象者は少なかったが一体経営に向けてふれ愛・コミ岩の職員異動等も効率的に実施できた。

<今後の課題>

- ・ 長期にわたり人材不足が続いていることは喫緊の課題である。効果的な募集・離職防止対策等を推進していききたい。
- ・ 新たな介護ロボット（サニタリー）も含め昨年度より導入している（a a m s・インカム）についても使用状況、導入効果の検証をしっかりと実施していく必要がある。
- ・ 感染症含め、自然災害・介護事故におけるリスク管理・BCP等研修の充実を図っていききたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況

管理者	: 1名	医師	: 1名（非 1名）	介護職員	: 22名（非 2名）
相談職員	: 2名	介護支援専門員	: 1名	看護職員	: 3名（非 2名）
事務職員	: 4名（非 3名）	管理栄養士	: 1名	理学療法士	: 1名
介護補助	: 10名（非 10名）	日直・運転職員	: 4名（非 4名）	合計	: 50名（非 22名）

○2024年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用：13名【介護職員：7名 生活相談員：1名 事務職員：5名】
 転出：1名【介護支援専門員：1名（コミ岩内）】
 退職：7名【介護職員：3名 看護職員：1名 事務職員：3名】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（溪仁会グループ・キャリア支援主催研修含む）

延参加者数29名（2023年度27名より2名増）

認知症介護者研修・リーダー研修、感染症研修（岩内保健所）、口腔ケア・排泄ケア研修（We b）、その他溪仁会グループ主催研修会、その他法人本部研修

○施設内研修開催回数11回（2023年度より回数増）

フィードバック（虐待予防）研修、リスクマネジメント研修、嘔吐物（感染予防）処理研修、防災研修、看取り研修、接遇研修、感染対策研修、虐待防止研修、BCP感染研修、事例検討会、その他

○岩内コミュニティの丘合同研修開催回数12回

介護現場におけるリスクマネジメント研修、老健在宅強化型に向けて、オムツのあて方研修、その他

2024年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：定員50名】

	目 標	実 績
延入所人数	<u>18,250 人</u>	<u>18,149 人</u>
一日平均入所者数	<u>50.0 人</u>	<u>49.7 人</u>
入所待機者	<u>0 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 4.13</u>	
協力医療機関	： <u>1. 指定管理者 医療法人湊仁会 泊村茅沼診療所</u>	
	<u>2. 岩内協会病院</u>	
	<u>3. 朝里中央病院</u>	
	<u>4. にしざき歯科医院</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>3,471 人</u>	<u>3,147 人</u>
一日平均入所者数	<u>9.5 人</u>	<u>8.6 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.81</u> （要支援1・2を除く）	

2024年度 事業報告

施設名：きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

1. 総括

入所部門においては、きもべつ喜らめきの郷は、入所定員80名で1日平均利用者数は上半期70.3名、下半期75.1名、年間72.7名、るすつ銀河の杜は、入所定員29名で1日平均利用者数は上半期26.0名、下半期28.7名、年間27.3名と2施設とも目標未達であった。喜らめきの郷においては新型コロナクラスター発生の影響を受ける月もあり、入院がアベレージ低迷に大きく影響している。7月からは銀河の杜も空床利用型の短期入所を開始し、109床をより効率的に稼働させることができるようアベレージ向上を目指した体制を取った。新規入所については、喜らめきの郷21名、銀河の杜8名とほぼ前年と同数となっている。待機者について、両施設とも上半期は確保に苦慮する状況であったが、下半期においては特に喜らめきの郷の待機者が安定的に維持できる状態が保てている。11月より嘱託医が定山溪病院に変更となり医療的連携は以前に比べ改善し良好な状態となっている。人員について、新規採用は主に外国籍職員を受け入れることである程度人員不足をカバーできる体制を取っているが、技能実習生は特定技能への在留資格切り替えが可能となった段階で都市部への異動希望が出る傾向があるため、高等学校新卒者等、長期勤務が期待できる地域での採用をより強化し安定的な人員確保につなげていく必要がある。退職者数は一定数から減少につなげることが出来ていないが職員自身の都合による退職も多く、職場環境を理由とした退職は減少傾向にあると考える。外国籍職員について、3月末現在、技能実習生12名、特定技能職員5名、合計17名の外国籍職員が在籍しておりユニット介護職員の1/3を占めているが、国籍等を理由としたトラブルは皆無である。

在宅部門においては、居宅介護支援はケアマネジャー1名の退職があったため予算を達成することはできなかったが地域ニーズが安定的に継続しており在宅、入所との接点としての役割をより強化していく。デイサービスはサービス提供地域が限られているため予算未達が続いたが2025年度からはサービス提供地域を喜茂別町まで拡大、定員を18名に変更し両町村の在宅を幅広くカバーする体制が整うため積極的な新規獲得を行い、2025年度予算達成を目指したい。訪問介護は、担い手がおらずほぼ職員1人での業務のため安定した収支が実現できていない。

地域活動においては、喜茂別町主催で行われた「喜茂別町福祉まつり」にビューティタッチセラピーのブースとして参加。町民との直接触れ合えることができる活動ができた。また、施設で実施する行事については感染対策による制限を緩和したものの例年通りの内容にとどまってしまったため、次年度以降施設が一体となってご利用者満足度を高める取り組みが必要である。

ICT化においては、サニタリー利用記録システムを各ユニット1台ずつ導入し、より正確な排泄状況の把握ができるようになり、プライバシー、健康面からサービス向上につなげることができている。また、ほのぼのと連携されているため今まで記録に要していた時間も短縮することができている。次年度以降もより効率化、サービス向上につながる機器を導入する。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第4水曜日(16:30~)開催。 ※施設運営会議にて検討中。

1) 効率的な人員配置と業務改善

・柔軟なシフト体制の構築、 ・委員会、会議開催日程等の見直しによる効率化

2) 各種加算の算定(両施設)

・LIFEに関する加算の算定 ・看取り介護加算 8件算定(両施設合計)

3) 費用等の見直し

・業務委託内容見直し、消耗品購入先、商品の見直し

4) その他

・各部署責任者による定期MT(第1・3水曜日)開催。

3. 職員状況(3月末現在)

○2025年3月31日職員状況 総職員数94名(内非16名)【きもべつ64名、るすつ30名】

医師2名(非2名)、看護職員10名(非1名)、介護職員62名(非8名)、介護支援専門員1名

生活相談員3名、管理栄養士1名、訪問介護員2名、事務職員他13名(非5名)

○2024年度職員異動状況

採用:12名【介護職員11名(正2名、契8名、非1名)、事務職員1名(契1名)】

退職:11名【介護職員10名(正3名、契7名)、介護支援専門員1名(正1名)】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修

各種法人研修の他、リスクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、接遇等、サクラボを活用して実施。

○外部研修参加回数:15回、22名参加

認知症介護リーダー・実践者研修、ユニットリーダー研修、介護職員実務者研修、技能実習責任者講習、後志老協研修、

○今後も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的オンラインでの研修の受講

2024年度 事業報告

きもべつ喜らめきの郷

【入所：定員80名（短期入所込み）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,534 人</u>	<u>26,529 人</u> ※含短期入所
一日平均入所者数	<u>78.2 人</u>	<u>72.7 人</u> ※含短期入所
入所待機者	<u>8 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.94</u>	
協力医療機関	： <u>1. 定山溪病院</u>	
	<u>2. 喜茂別町立クリニック</u>	
	<u>3. 洞爺温泉病院</u>	
	<u>4. 喜茂別歯科</u>	
	<u>5. ふじ歯科クリニック</u>	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>512 回</u>	<u>90 回</u>
（総合事業）		<u>192 回</u>
（障がい）		<u>244 回</u>
（制度外）		<u>121 回</u>
一日平均利用回数（介護保険・総合事業）		<u>1.14 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.06</u> （要支援1・2を除く）	

2024年度 事業報告

るすつ銀河の杜

【入所：定員29名（短期入所込み）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,406</u> 人	<u>9,982</u> 人 ※含短期入所
一日平均入所者数	<u>28.5</u> 人	<u>27.3</u> 人 ※含短期入所
入所待機者	<u>1</u> 人（3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.00</u>	
協力医療機関	： <u>1. 留寿都診療所</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 洞爺温泉病院</u>	
	<u>4. 留寿都歯科診療所</u>	

【通所介護：地域密着型10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,271</u> 人	<u>1,059</u> 人
一日平均利用者数	<u>5.2</u> 人	<u>4.3</u> 人
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.1</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>675</u> 件	<u>546</u> 件
（うち介護予防）		<u>10</u> 件
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.75</u> （要支援1・2を除く）	

2024年度 事業報告

施設名：手稲つむぎの杜

1. 総括

●2024年度の総括

昨年度に引き続き、2024年度法人経営基本方針である『経営の在り方』、『福祉人財の在り方』、『サービスの在り方』、『地域社会への在り方』、『法人、施設の在るべき姿』に対し取り組んできた。

経営面においては、特養において入院数が昨年度と比較し3倍近くとなり、稼働率が著しく低下した。また、待機者数も減少傾向にあり、新規入居者においては、従来の入居者の状態像と異なり、認知症による重度のBPSD症状やより多くの医療的なケアを必要とする方が多く、入居から退所までの期間も短縮傾向にあった。在宅事業においては、認知症型デイでは下期以降、関係機関への情報提供等を積極的に行うと共に新規相談の円滑な対応で利用者数の回復が図られ、僅かではあるが稼働率の改善が見られた。一般デイについても新規利用者の獲得を順調に進めることができた。ブロック事業全体では年度目標を下回り、予算と大きく乖離する結果となった。

人員面では新年度の採用職員の内複数が短期間で退職された。また在宅事業でも短期間での退職者が出たものの、離職率については前年度を若干下回る結果であった。新年度には、ほぼ人員計画通りの体制を確保できた。

業務面では入所部門が中心となり、介護ソフトの有効活用とペーパーレス化を図りながら業務の効率化を推進し生産性向上を進めてきた。その状況については、在宅事業とも共有してブロック全体の業務改善に努めて行く。また、入所部門ではノーリフトケアについての取り組みも順次進め、介護職員の身体的負担の軽減に努めていく。

今年度は施設開設10周年の節目の年となり、地域住民、ご入居者、家族、職員それぞれへ向けた記念イベントを開催し、より繋がりを深めることができた。今後も地域に根ざした運営に努めていく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

＜活動状況＞ 施設運営会議・つむぎプロジェクト会議・入所役職者会議（原則毎月第4金曜日）にて、課題の検証と対策を協議

○利用者の確保

入 所：年間新規30名、退居29名（施設内看取り17名）、予算達成率98.1%であった。コロナ感染症の影響も一部あったものの入院者数は昨年度の3倍と激増した。また、平均在所期間は短縮傾向で、入居1年以内での退居も増加し新規入居者の状態像は大きく変化してきている。

短 期：年間新規54名、予算達成率102.7%、9月ご利用者のコロナ陽性者発生により複数の職員が罹患し、4日間の事業停止の稼働率が低下。下期には手稲区内で1件の短期入所事業所が休止となった事により年度末にかけて新規相談が倍増した結果目標値を上回る稼働率を確保できた。

通 所：年間新規64名（体験利用者数の64.3%）、予算達成率97.6%。退職等による人員体制が確保できない状況下で業務改善を進めながら運営を行って来た。下期に入り計画通りの人員配置が整えることができ、円滑な新規受入れに繋がった。

認 知：年間新規11名（前年度比5名増）、予算達成率49.6%。新規利用者の獲得に苦慮していたが、相談から体験までの期間を短縮し、円滑に利用者の確保ができ、下期後半では新規利用者が増加。しかし、市内各事業所も利用者獲得に苦慮している現状であり、事業所や事業自体の認知度向上へむけた活動が急務。

小多機：年間新規9名、予算達成率95.6%（登録定員29名）。年間を通じて職員体制が整わなかったことや関係機関へのPR不足により稼働率が不安定であった。しかし、予算値を下回ったものの、事業単体としては黒字経営を維持できていた。

居 宅：年間新規78名。予算達成率82.5%、事業所統合後による事業所拠点の変更や人事異動等により中央区、西区の体制維持が困難な状況となっている。

予 防：町内会との共催イベントを初開催し、またSNSを活用したフレイル予防の体操、教室実施等々にはあるがコロナ前の活動とコロナ禍で新たに始めた活動を融合させ、精力的な活動を行った。

○各種加算の算定

介護報酬改定に伴う新たな加算も追加し、特養、短期入所では新たに「協力医療機関連携加算Ⅰ」「感染症対策向上加算Ⅱ」「生産性向上加算Ⅱ」、「精神科医療養指導加算」を算定。小多機においては「認知症ケア加算Ⅰ・Ⅳ」「生産性向上加算Ⅱ」を算定。その他の事業においても前年度同様の加算を算定し、単価の維持向上に努めた。

○2025年度に向けて

各事業が予算を意識した運営を行い、収益を確保しブロック全体で収益を確保する事に重点をおいて行く。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日現在 職員状況 施設合計：129名（常勤85名、非常勤40名、派遣4名）

＜入所・短期＞

- ・管理者1名、医師2名（非常勤2名）、看護8名（非常勤1名）、介護52名（非常勤7名、派遣2名）、
- ・介護補助4名（非常勤4名）、CM2名、PT1名、栄養2名、歯科1名（非常勤1名）、相談3名、事務8名（非常勤2名）
- ・事業所合計：80名（常勤57名、非常勤15名、派遣2名）

＜通所・認知症＞

- ・管理者2名、看護3名（非常勤1名）、介護25名（非常勤13名）、運転2名（非常勤2名）
- ・事業所合計：32名（常勤17名、非常勤15名）

＜小多機＞

- ・管理者1名、看護2名（非常勤1名）、介護12名（非常勤4名）介護補助1名（非常勤1名）
- ・事業所合計：16名（常勤9名、非常勤7名）

＜居宅・予防＞

- ・管理者2名、CM6名、相談1名
- ・事業所合計：9名（常勤8名）

○2024年度職員採用・退職等状況（※派遣職員除く）

- ・採用：27名【看護6名（入所6名）、介護19名（入所13名、通所4名、小多機2名）、相談1名（居宅1名）】
- ・退職：26名【看護5名（入所5名）、介護15名（入所9名、通所3名、小多機3名）、介護補助1名（小多機1名）、相談2名（居宅2名）リハ1名（通所）事務他2名（通所）】
- ・転入：7名【認知症型デイ所長（月寒あさがおの郷より）、小多機介護職（喜茂別きらめきの郷より）居宅管理者1名、主任1名 介護専門員3名（ケアプランセンターこころ円山より）】
- ・転出：1名【居宅主任（ケアプランセンター湊仁会東へ）】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況

<入所・短期>

【社福法人本部主催】※参加者数46名

- ・新人職員研修（8名）、新人介護職員研修（7名）、接遇アドバイザー研修（1名）、虐待防止研修（2名）
- ・ライフプランセミナー（1名）、依存症防止研修（5名）、介護福祉士受験対策講座（1名）、認知症研修（3名）
- ・認知症ケアリーダー研修（1名）、健康推進研修（8名）、SNS勉強会①（4名）、睡眠改善研修（2名）
- ・認定調査を知る研修（1名）、SNS勉強会②（2名）

【溪仁会グループ・病院主催】※参加者数16名

- ・年代別キャリアデザイン（1名）、評価者研修（1名）、コミュニケーションスキル研修（2名）、OJT研修（1名）
- ・幹部職員セミナー（3名）、OJT研修会（1名）、第26回手稲溪仁会NSTセミナー（2名）
- ・食堂がん周術期における摂食嚥下障害（1名）、DXに活かせるExcel研修会（1名）、TEINEスキンケア研修会（3名）

【北海道】※参加者数1名

- ・エゾシカ給食セミナー（1名）

【札幌市】※参加者数1名

- ・令和6年度特定給食施設等研修会（2名）

【道社協・老施協】※参加者数1名

- ・北海道デイ協セミナー（1名）、北海道デイ協研修（1名）

【団体・企業等】※参加者数4名

- ・低栄養、摂食障害の栄養管理研修（1名）、口腔ケア研修会（1名）、日本認知症ケア学会（1名）、ユニットリーダー研修（1名）

【北海道栄養士会等】※参加者数13名

- ・春期職域別専門研修会（1名）、日本栄養治療学会第16回支部（1名）、その他10回（11名）

<通所・認知>

【社福法人本部主催】※参加者数4名

- ・新入職委員研修（1名）、中間管理職講座（1名）、認知症ケアリーダー研修（2名）

【道社協・老施協】※参加者数2名

- ・北海道デイ協セミナー（2名）

<居宅・予防>

【社福法人本部主催】※参加者数26名

- ・接遇アドバイザー養成研修（1名）、認知症研修（10名）、睡眠改善研修（2名）、虐待防止研修（1名）
- ・中堅管理職講座（1名）、依存症防止研修（5名）、認定調査を知る研修（4名）、SNS勉強会（2名）

【溪仁会グループ・病院主催】※参加者数7名

- ・メンタルヘルス研修会（1名）、評価者研修（3名）、OJT研修（1名）、役職者のためのファシリテーション研修（1名）
- ・DXに活かせるExcel研修会（1名）

【その他】※参加者数1名

- ・ケアラー支援関係職員研修（1名）

<小多機>

【社福法人本部主催】※参加者数5名

- ・新入職員研修（1名）、新人職員介護職員研修（1名）、中間管理職研修（1名）、認知症ケアリーダー研修（2名）

【溪仁会グループ・病院主催】※参加者数1名

- ・TEINEスキンケア研修会（1名）

【その他】※参加者数2名

- ・認知症実践者研修会（1名）、小規模多機能型居宅介護サービス等計画作成担当者研修会（1名）

○内部研修実施状況

<入所・短期>

- ・感染対策研修会・訓練（55名）、感染対策研修会（食中毒）（55名）
- ・BCP研修（感染）8月（11名）・2月（13名）、BCP初動訓練（感染）8月（10名）・3月（12名）
- ・BCP研修（災害）11月（11名）・2月（12名）、BCP初動・発生対応訓練（感染）11月（11名）・2月（12名）
（コロナウイルス感染症想定訓練・PPE着脱研修8月（13名）12月（13名）10月（55名）
- ・褥瘡予防研修会（42名）、身体拘束・虐待防止研修会前期（51名）、身体拘束・虐待防止研修会後期（59名）
- ・事故防止研修会前期（47名）、事故防止研修会後期（44名）、看取り研修会（53名）

<通所>

- ・感染研修会・訓練（22名）、感染採用時（3名）、BCP研修、訓練（22名）、災害（22名）、虐待研修会（22名）

<認知>

- ・感染研修会・訓練（6名）、BCP研修、訓練（6名）、災害（6名）、虐待研修会（6名）

<居宅>

- ・感染研修会・訓練（7名）、BCP研修・訓練（7名）、虐待研修会（7名）、採用時研修（2名）

<小多機>

- ・感染研修会・訓練（17名）、感染研修会（食中毒）（17名）、BCP研修、訓練（15名）、災害（15名）、虐待研修会（14名）

<予防>

- ・感染研修会・訓練（2名）、採用時研修（1名）、BCP研修・訓練（2名）、災害（2名）、虐待研修会（2名）

<合同研修>

- ・ACP研修会（地域、職員向け）（職員14名）

2024年度 事業報告

手稲つむぎの杜

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,907 人</u>	<u>28,358 人</u>
一日平均入所者数	<u>79.2 人</u>	<u>77.7 人</u>
入所待機者	<u>47 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 4.3</u>	
協力医療機関	： <u>1. 手稲溪仁会病院</u>	
	<u>2. 手稲家庭医療クリニック</u>	
	<u>3. 安永歯科</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,920 人</u>	<u>3,001 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.0 人</u>	<u>8.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.4</u> （要支援1・2を除く）	

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>12,759 人</u>	<u>12,461 人</u>
一日平均利用者数	<u>41.4 人</u>	<u>40.5 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.92</u> （要支援1・2を除く）	

【通所介護：認知症対応型 12 名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2, 3 2 0 人</u>	<u>1, 6 0 5 人</u>
一日平均利用者数	<u>7. 5 人</u>	<u>5. 2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2. 7 3</u> （要支援 1・2 を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数 （うち介護予防）	<u>3, 4 2 9 件</u>	<u>2, 8 3 0 件</u> <u>2 5 2 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 8</u>	
訪問調査件数		<u>6 6 件</u>

【介護予防センター】（まえだ）

延相談件数 4 8 件

相談内容（重複有）

介護保険制度： 2 3 件
 権利擁護： 0 件
 高齢者虐待： 0 件
 介護予防： 2 5 件
 その他： 2 8 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>8 6 回</u>	<u>1, 3 2 1 人</u>
介護予防教室	<u>2 2 回</u>	<u>3 1 8 人</u>
転倒予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
認知症予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>1 7 回</u>	<u>1 8 1 人</u>

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員15名、宿泊5名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>9, 4 9 0 人</u>	<u>9, 0 7 7 人</u>
※延通い利用者数		<u>3, 4 4 6 人</u>
※延宿泊数		<u>1, 0 9 3 人</u>
※延訪問数		<u>5, 1 9 7 人</u>
一日平均登録者数	<u>2 6 人</u>	<u>2 4. 9 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 9</u> （要支援1・2を除く）	

2024年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

特養に関しては、年間の退居者が7件となっており、前年度対比－1件であった。年間アベレージは予算未達ではあるが、28.1名となり、平均介護度が高い値で安定していた。ホームケアクリニック麻生の協力により入院による退居が減少傾向である。（一日平均入居者数：2023年度28.4名、2024年度28.1名）

小規模多機能型居宅介護は、アベレージが予算未達、長期連泊の受け入れ制限により減収。加えて職員の欠員により長期連泊の再開ができず年間を通して苦しい経営となった。営業活動や経営改善に向けた検討を続けアベレージの上昇を目指すとともに、長期連泊の再開により顧客単価の上昇を目指している。（年間アベレージ：2023年度25.3名、2024年度26.4名）

サテライト型小規模多機能ホームるびなすについては、柔軟なサービス提供により定期的に他事業所より新規紹介を受け安定した収益を得ることができた。今後も長く在宅生活が続けられるよう、個別の対応に特化した運営を目指す。

（年間アベレージ：2023年度15.7名、2024年度16.8名）

2025年度稼働率100%達成の為、全事業所安定した待機者の確保とともに、特養に関しては転倒事故から骨折入院のケースが増加傾向のため、事故防止委員会の活性化を図り、事故要因の分析、是正策の検証を強化し、転倒事故の発生回数減少を目指す。

小規模多機能については、平日の宿泊サービスの再開を目指すとともにゾーニングの為に間仕切り扉を設置し、宿泊者から陽性者が発生した場合でも事業を継続できる環境を整備し、ご利用者の安定確保を目指す。小規模多機能ホームるびなすについては、定員数が少ないため、まめな営業活動を展開し、既存の紹介先にとどまらず、外来のみの医療機関等にも営業活動を行い、新規の獲得を目指す。

修繕については2024年度、エアコン、ボイラー、入浴関連の大型の修繕はなかったものの、居室内の照明やトイレ手すり、ウォシュレット等、開設から使用していた設備が経年劣化の為、破損してきており、2025年度においては計画的なメンテナンスと修繕を行っていく。

事故（10件）・苦情（1件）に関して、事故については誤薬事故6件、転倒事故4件であった。前年度に比べ増加傾向となっている。ご利用者の身体状況や認知機能の低下が原因として挙げられるが、転倒を繰り返すケースもみられるため、事故防止委員会の再発防止策の徹底、事故原因の検証を強化して再発を防止する。

人材確保については2024年度、入職が3名、退職が5名となっており、求人誌やウェブでの応募が減少している。応募数を確保するため、ポスティング等、求人誌以外の方法についても幅広く検討していく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>：毎月第3日曜日（14：00～）開催

1）各事業所稼働率向上について 2）職員募集・新人介護職員教育等について（離職防止も含め） 3）感染症対策 4）接遇 5）その他
<成果>

1）特養については、ご利用者に対し体調の管理、スキンケア等の質の向上により、感染を予防し、体調がより安定。

小規模については、アベレージの改善と人員の確保により、平日の泊りサービスの再開を検討。安定した事業運営を目指した。

2）定期的にマニュアルを見直して、新人介護職員の勉強会等で使用。個人面談の回数を増やし業務内での不安や悩み等確認できた。

3）施設内感染症対策については、感染委員会と連携し感染予防の方針と下期には感染対策の緩和についても検討を実施。また、ミーティングや会議、研修について開催基準や開催方法の見直しを行なった。

4）接遇については、マニュアルの啓蒙や改善点の報告等を行なった。

5）アンケート結果から感染対策に緩和について検討、その他、接遇面での指摘もあり、改善点を検討。

<今後の展開>

特養については、転倒事故による入院者数の減少を目指し、委員会活動を強化していく。小規模多機能型居宅介護については新規の相談件数の増加を目標に営業活動を更に強化していく。るびなすについても営業活動の幅を広げ、近隣の外来医療機関にも積極的に営業活動を行い、稼働率の向上を図っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況

医師1名（非常勤）、看護職員3名、介護職員39名（非常勤7名、派遣2名）、生活相談員（兼介護支援専門員）1名、管理栄養士1名、歯科衛生士1名（非常勤）、リハビリ2名（非常勤）、事務職員他5名、合計55名（非常勤9名、派遣2名、育休1名）

○2024年度職員異動状況

採用3名【介護職員3名（常勤3名）】

退職5名【介護職員5名（常勤5名）】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：19回

接遇、認知症ケア、BCP、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、看取りケア 他

○外部研修実施回数：15回

新入職員研修、虐待防止研修、コミュニケーションスキル研修、認知症介護実践リーダー研修、ユニットリーダー研修、リーダー交流研修等

2024年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,478 人</u>	<u>10,247 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.7 人</u>	<u>28.1 人</u>
入所待機者	<u>8 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 4.28</u>	
協力医療機関	: <u>1. ホームケアクリニック麻生</u> <u>2. 手稻溪仁会病院</u> <u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,478 人</u>	<u>9,640 人</u>
※延通い利用者数		<u>3,749 人</u>
※延宿泊数		<u>207 人</u>
※延訪問数		<u>3,960 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.7 人</u>	<u>26.4 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.87</u>	

【小規模多機能ホームるびなす：登録者定員18名（通い定員9名、宿泊3名）】

目 標

実 績

延登録者数 6, 4 6 3 人 6, 1 3 8 人

※延通い利用者数 1, 0 6 2 人

※延宿泊数 1 4 人

※延訪問数 2, 7 6 1 人

一日平均登録者数 1 7 . 7 人 1 6 . 8 人

要介護度状況 : 平均要介護度 1 . 3 9

2024年度 事業報告

施設名： カームヒル西円山

1. 総括

特定施設入居者生活介護サービス利用入居者のアベレージ43.7名（目標48名）で、ケアハウスとしては一日平均入所者数97.4名（目標100名）、平均介護度1.0でした。

現在、全入居者の平均年齢は89.5歳（内、特定施設入居者生活介護サービス利用入居者は平均89.7歳）と超高齢で、介護保険認定を受けていない方は35名です。

超高齢で自立度の高い方が多い中、コロナによる長期間の活動制限の影響を受け、フレイルが進み、認知機能低下や転倒骨折、体調不良者が増え、入居者の入院が70名と多く（2023年度49名）収入確保が難しかったです。

顧客の視点としては、情報発信の強化としてホームページの更新、インスタグラムの発信をしており、SNSを見てご家族や地域、他施設からも活動を評価していただく機会が増えています。

地域や他機関とのつながりは、行事を通して入居者と職員も一緒に実施しており、特に神社カフェは401名（2023年度240名）と参加者が増え、障害支援事業所と連携を図るなど交流を楽しんでいます。

職員企画による活動も活発で、行事等で入居者の笑顔を沢山いただいています。

研修参加や他施設見学を通して、学習や成長の機会も持っています。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- 1 運営規定の見直し（宗教活動の禁止、敷地内禁煙）
- 2 介護報酬改定により、新しい加算（ADL維持等加算、協力医療機関連携加算、退居時情報提供加算）の取得に向けての取り組み
- 3 口腔衛生管理体制加算が基本サービスに変更になり、特定入居者の歯科検診、職員指導の実施
- 4 入居者ファイルの整備（フェイスシートの見直し）
- 5 ケアプランとの連動（生活機能訓練実施）
- 6 事故防止（配薬管理の見直し、転倒介護予防の取り組み（一般）の啓発・運動）
- 7 介護職員の個別担当制、カルテット会議実施

<今後の展開>

カームヒル西円山は、2025年度開設29年となり、今後もしばらくは、入居者の超高齢化、認知症をはじめケアの必要な状況、入院や退去など入居者の出入りがあると考えられます。

又、建物の老朽化に伴い修繕の増加、時代と共に入居者や家族の考え方やニーズの変化、入居者の多様化、二人部屋の需要の少なさ、家族関与の考え方の変化、身元保証人の不在など様々な問題に取り組むが必要です。

これらの課題に職員が一丸となって対応しながら、法人スローガン「ひとりと向きあう。」を念頭に、満足していただけるケアを引き続き実施し、持続可能な運営を目指します。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況

管理者：1名、看護職員：2名、介護職員：17名、相談職員：3名、事務職員：1名、合計：24名

○2024年度職員採用・退職等状況

採用⇒2名

退職⇒0名

異動⇒1名

4. 研修参加・実施状況

○参加：75回 参加者：延487名

外部研修：老人福祉施設協議会・全国軽費老人ホーム協議会・北海道社会福祉協議会等

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、事故防止対策研修、口腔ケア勉強会等

2024年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>36,500人</u>	<u>35,667人</u>
（うち特定入居者）		<u>15,968人</u>
一日平均入所者数	<u>100人</u>	<u>97.7人</u>
（うち特定入居者）		<u>43.7人</u>

入所待機者（3月末現在）個人：86人 夫婦：8人 うち特定：19人
(要支援1・2を含む)

要介護度状況： 平均要介護度 1.0 (要支援1・2を含む)

協力医療機関：1. 札幌西円山病院

2024年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム白石

1. 総括

コロナも5類となり実力が試される1年ではあったが、老健においては、やはりコロナ発症により入退所を制限するなど稼働には影響を受けている。その中でも発症階以外での新規入所受入調整なども行い稼働率の影響を最小限には留めた結果となり評価しても良い。小規模多機能型居宅介護及び訪問介護の経営は依然厳しく、さらに特色及び強みを発信していかないと生き残りは難しい。2024年度も採用には苦慮したが、特に札幌市白石区第3地域包括支援センターの主任介護支援専門員の採用が出来ず、事業所運営が厳しい1年であった。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

開催日：毎月1回、第3月曜日に定例開催。

参加者：施設長、経営管理部長、施設ケア部長、リハビリテーション部長、経営管理部次長、支援相談課課長の6名。

内 容：利用稼働率（老健入所、通所）の確認

超強化型算定への協議（在宅復帰率、ベッド回転率、他算定要件の確認）

新規加算の算定に向けた検討

BSCアクションプラン実施に向けた検討

その他運営上の課題について協議

<成 果>

1 2024年度BSCにおけるアクションプランの実施をリードした。

2 BCP策定の先導

3 各事業の運営の適正化の検証

<今後の展開>

経営改善プロジェクト会議は、これまで通り白石の運営方針策定やBSC運用に際して重要な位置付けとなる。

ブロック全体の将来的な展望も視野に入れ、各課題を共有、協議し運営会議に繋げ所属長合意のもと事業運営を行っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況

医師3名、看護職員16名、介護職員87名、相談職員42名、介護支援専門員8名、療法士20名

管理栄養士2名、歯科衛生士1名、薬剤師1名、事務職員他16名、介護助手20名、非常勤ヘルパー7名

合計223名（産前産後休業・育児休業4名、育児短時間勤務1名）

○2024年度職員異動状況

採用：40名（看護職員4名、介護職員14名、療法士2名、事務職員他20名）

退職：26名（看護職員3名、介護職員10名、療法士1名、事務職員他12名）

転入：10名

転出：0名

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ本部主催研修会：延27名参加

○社会福祉法人本部主催研修会：延62名参加

○外部研修：延106名参加

○内部研修（全体研修）：新入職員研修会10名参加

○研究発表会

・溪仁会グループ研究発表会 白石ブロックから8演題発表

・ケアの質向上委員会（介護、看護）14演題発表

・上記以外の事業所（相談、在宅事業）8演題発表

2025年度は合同での優秀演題発表会開催を協議していく

○その他、部署毎に研修計画を作成し部内研修会及び伝達講習会を実施

2024年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>35,769 人</u>	<u>34,800 人</u>
一日平均入所者数	<u>98.0 人</u>	<u>95.3 人</u>
入所待機者	<u>7 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.1</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2. 東札幌病院</u>	
	<u>3. 札幌ひばりが丘病院</u>	
	<u>4. ピースデンタルクリニック</u>	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>10,085 人</u>	<u>10,024 人</u>
一日平均利用者数	<u>41.5 人</u>	<u>41.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.7</u> （要支援1・2を除く）	

【短期入所生活介護：定員19名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6,034 人</u>	<u>5,822 人</u>
一日平均入所者数	<u>16.5 人</u>	<u>16.0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.7</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>3, 3 5 4 回</u>	<u>2, 5 4 8 回</u>
（介護保険外）		<u>9 1 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>1 0 . 8 回</u>	<u>8 . 2 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1 . 7</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>7, 6 9 1 回</u>	<u>7, 1 5 3 回</u>
（介護保険外）		<u>0 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>3 1 . 7 回</u>	<u>2 9 . 4 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2 . 4</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2, 7 5 2 件</u>	<u>2, 6 5 1 件</u>
（うち介護予防）		<u>2 3 1 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1 . 9</u> （要支援1・2を除く）	

【第1地域包括支援センター】

延相談件数 1, 3 3 0 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：	<u>9 1 1</u> 件
権利擁護：	<u>2 1</u> 件
高齢者虐待：	<u>5</u> 件
介護予防：	<u>4</u> 件
その他の保健福祉サービス：	<u>1 2</u> 件
認知症に関すること：	<u>1 2 6</u> 件
消費者被害に関すること：	<u>0</u> 件
住まいに関すること：	<u>1 1 5</u> 件
心身の健康に関すること：	<u>3 2</u> 件
家族の疾病・障がいに関すること：	<u>7</u> 件
その他：	<u>1 6 6</u> 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>1 3</u> 回	<u>0</u> 回
個別地域ケア会議の準備会	<u>6</u> 回	<u>0</u> 回
地区地域ケア会議	<u>1</u> 回	<u>0</u> 回
地区連絡会議	<u>0</u> 回	<u>0</u> 回
区地域ケア推進会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回
区連絡会議	<u>4</u> 回	<u>0</u> 回
その他のケース検討会議	<u>0</u> 回	<u>2</u> 回
運営推進会議等	<u>0</u> 回	<u>9 3</u> 回
地区組織との連携	<u>7</u> 回	<u>2 3</u> 回
医療機関との連携	<u>3</u> 回	<u>3</u> 回
生活支援コーディネーターとの連携	<u>1</u> 回	<u>0</u> 回
その他関係機関との連携	<u>1 7</u> 回	<u>1 4</u> 回

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>6 9 0</u> 件	<u>3 7 3</u> 件	<u>1 0 3</u> 件

【第3地域包括支援センター】

延相談件数 1,469 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：	<u>976 件</u>
介護予防：	<u>9 件</u>
権利擁護：	<u>40 件</u>
その他の保健福祉サービス：	<u>21 件</u>
消費者被害に関する事：	<u>1 件</u>
認知症に関する事：	<u>100 件</u>
住まいに関する事：	<u>120 件</u>
心身の健康に関する事：	<u>65 件</u>
高齢者の虐待に関する事：	<u>12 件</u>
家族の疾病・障がいに関する事：	<u>23 件</u>
医療に関する事：	<u>37 件</u>
処遇困難：	<u>87 件</u>
その他：	<u>484 件</u>

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>16 回</u>	<u>0 回</u>
個別地域ケア会議の準備会	<u>22 回</u>	<u>0 回</u>
地区地域ケア会議	<u>1 回</u>	<u>0 回</u>
地区連絡会議	<u>1 回</u>	<u>0 回</u>
区地域ケア推進会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
区連絡会議	<u>7 回</u>	<u>0 回</u>
その他のケース検討会議	<u>9 回</u>	<u>3 回</u>
運営推進会議等	<u>0 回</u>	<u>68 回</u>
地区組織との連携	<u>23 回</u>	<u>39 回</u>
医療機関との連携	<u>9 回</u>	<u>1 回</u>
介護支援専門員連絡協議会	<u>2 回</u>	<u>2 回</u>
生活支援コーディネーターとの連携	<u>0 回</u>	<u>0 回</u>
その他関係機関との連携	<u>183 回</u>	<u>38 回</u>

予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>673 件</u>	<u>601 件</u>	<u>417 件</u>

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 77 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：63 件

権利擁護：0 件

高齢者虐待：0 件

介護予防：27 件

その他：40 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
介護予防教室	<u>140</u> 回	<u>1,844</u> 人
転倒予防教室	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
認知症予防教室	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
研修会・講演会	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
その他	<u>17</u> 回	<u>19,373</u> 人

【介護予防センター（本通）】

延相談件数 26 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：5 件

権利擁護：0 件

高齢者虐待：0 件

介護予防：14 件

その他：19 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
介護予防教室	<u>162</u> 回	<u>1302</u> 人
転倒予防教室	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
認知症予防教室	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
研修会・講演会	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
その他	<u>11</u> 回	<u>15,289</u> 人

2024年度 事業報告

白石の郷

【グループホーム：定員18名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6,462 人</u>	<u>6,469 人</u>
一日平均入所者数	<u>17.7 人</u>	<u>17.7 人</u>
入所待機者	<u>10 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.7</u>	
協力医療機関	： <u>1. 札幌在宅クリニック そよ風・白石</u>	
	<u>2. 札幌ピースデンタルクリニック</u>	
	<u>3. 北郷皮膚科</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員15名、宿泊5名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,220 人</u>	<u>9,020 人</u>
※延通い利用者数		<u>3,656 人</u>
※延宿泊数		<u>483 人</u>
※延訪問数		<u>5,075 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.0 人</u>	<u>24.7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.1</u>	

2024年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

介護保険改正に伴う新たな加算等に出来るだけ幅広く適合できるように準備を進め、比較的満足できるスタートが切れた。同時に施設長が新たに石川医師に代わり新体制となったが、認知症短期集中リハビリや所定疾患施設療養費等、より有益な加算取得要件の研修を順次終え、これまでの事業運営を踏襲できる体制を早期に整えたと評価している。人員については各部門においてもひっ迫するほどの不足に陥ることがなく1年が過ぎ、有休取得のほか、イベントや出張研修にも時間を費やすことが出来たので、多くの職員が例年よりゆとりを感じながら業務遂行できたと予想する。これらのことからブロック全体の収益は予算を上回ることが出来たものの、感染対策関連や物価高騰により費用が超過し目標利益を達成することができなかった。(各事業の概要は以下のとおり)

《老健入所》健康管理体制と口腔ケア体制の強化により入院退所が例年より少なかったため、1年を通して高稼働を維持できた。しかしながら4、8月には新型コロナクラスター、1月にはインフルエンザクラスターに見舞われ、医療および介護費用や時間外手当が増大し利益を押し下げる要因となった。他方で、これまで導入し取組んできた介護機器・ICT・ノーリフティングケア等について評価されて見学や事例紹介の引き合いも多く、今後更なる推進を方向付ける機会となった。

《通所リハビリ》例年ならば冬季に落ち込む傾向があるものの、今期は新規利用者も断続的に得られ、かつニーズが多い外食等の外出レクや、休業が長期となった年末年始中の臨時営業等、ご利用者に喜ばれるサービスを展開し利用者数は堅調に推移することができた。さらには、入所の健闘により空床が少なく経過したためショートステイに流れる利用者も少なく、前述の取組み等が成果として現れやすかったとも言える。

《訪問介護》昨年度末にて町内他事業所の閉鎖があったため、職員1名と利用者数名が年度初頭にて受入れられた。これにより予算を大きく上回る実績となったが、余力を考慮すると期待し得る稼働にやや不足感もあった。

《訪問リハビリ》新卒スタッフ2名の採用があったため、AVE向上を期待して高い目標を設定したが、国家試験の不合格や新人育成の都合により注力できるマンパワーが足りず積極的な利用促進に踏み込めなかった。そのため目標を大きく下回る結果に留まっている。

《居宅介護支援》法改正による介護予防支援の指定許可を早速受け受託より高い収益性を期待してスタート。この期待以上の成果として、包括支援センターからの紹介は、これまでならば要支援判定の可能性を含むケースは遠慮される傾向があったが、指定に伴い遠慮心理が払拭され紹介ケースが増えたと実感する。要支援と要介護を合わせた目標には至らなかったものの紹介増による要介護の件数が前年比で増加しており経営戦略にも有効な結果が得られた。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

＜活動状況＞施設運営会議（毎月第4木曜日）において経営状況における課題等を協議

- 前年度末に導入されたサニタリー利用記録システムが本格運用となり、排泄に掛かる記録の軽減や排泄介助の質向上に繋がってICT化の利便性を強く感じた。これ以前に導入されていた介護システム《ほのぼのNEXT》も、ICT化の波に押される形で情報や記録の入力が進み、部署内のみならず部署間の情報共有に活用された。これらにより、今ではタブレット（ケアパレット）活用が必要不可欠な状態となりDXが推進されたと言える。
- 前年までノーリフティングケアプロジェクトを定期開催していたが、生産性向上加算の算定開始に伴いDX推進を議題に含めた生産性向上委員会を定期開催している。PCやタブレット端末の活用事例、スライディングボードやシートの有効性が協議された結果、導入が拡大し腰痛予防にも繋がっている。
- 入所の日用品のうち一部は施設で準備し提供することとしたが、これまで要した不足や追加時の家族連絡が省略され職員の業務負担低減に繋がった。
- キュービクル更新工事に併せてデマンドコントローラを導入した。電力ピーク時のカットには有効だが消費電力の抑制には目立った効果が見られていない。ただし、様々な機器が電動化・電子化されているため単純比較も難しい。
- 利用者の夢を叶える企画を実施したが、函館夜景見学のパスレクや焼肉屋への外食レクなど、これまでの既成概念を超えた挑戦を行った。
- 職員交流として、職員のお子さんも参加してドッジボール大会を開催し親交を深めるレクリエーションが行われた。
- 職員の発想力・企画力を活かし育成する目的で、4年目となるアイデアコンペを本年も行い2企画の選定が行われた。

＜今後の展開＞

- ノーリフティングやICTについては引き続き施設から見学依頼もあるので、これらを好機と捉え更なる発展に繋げていきたい。
- 稼働については各事業が相互にバランス良く依存することで好循環を生み利益も最適化されるので、各部門の役職者をはじめ多くのスタッフが円滑なコミュニケーションを取れるように留意していきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況

医師1名、看護職員12名（内非常勤2名）、介護職員52名（内非常勤9名）、療法士11名（内非常勤2名）、管理栄養士2名、ケアマネジャー6名、歯科衛生士3名（内非常勤3名）、訪問介護員5名（内非常勤1名）、相談員4名、事務員6名（内非常勤2名）、運転手・介護助手10名（内非常勤9名） 《合計》112名（常勤84名、非常勤28名）

○2024年度職員異動状況

採用：11名（医師1名、看護1名、介護3名、療法士2名、歯科衛生士1名、助手1名、運転手2名）

退職：10名（介護4名（内法人内転出1名）、ケアマネ1名、歯科衛生士1名、助手1名、運転手2名、事務1名）

4. 研修参加・実施状況

○内部研修：感染対策、身体拘束、褥瘡予防、不適切ケア、BCP、接遇研修、救急救命等	合計11回	延1043名参加
○外部研修(法人内)：新入職員研修、中堅役職者研修、虐待防止研修、認知症研修、SNS勉強会等	合計23回	延58名参加
○外部研修(法人外)：リフトリーダー養成研修、認知症ケア学会、看取り研修、管理医師総合診療研等	合計24回	延40名参加

2024年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>32,492 人</u>	<u>32,655 人</u>
一日平均入所者数	<u>89.0 人</u>	<u>89.5 人</u>
入所待機者	<u>2 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.8</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 八雲総合病院</u>	
	<u>2. ヤクモ歯科クリニック</u>	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>7,675 人</u>	<u>7,665 人</u>
一日平均利用者数	<u>30.0 人</u>	<u>29.9 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>213 人</u>	<u>66 人</u>
一日平均利用者数	<u>0.9 人</u>	<u>0.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.3</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>2, 8 9 2 回</u>	<u>3, 3 4 0 回</u>
（介護保険外）		<u>1 0 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>9. 4 回</u>	<u>1 0. 8 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2. 1</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1, 1 6 4 件</u>	<u>1, 1 2 3 件</u>
（うち介護予防）		<u>2 1 6 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 7</u> （要支援1・2を除く）	

2024年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄・すまいる

1. 総括

2024年度は基本方針である（１）健全で安定的な財政基盤の確立、（２）人財の育成、確保及び働きやすい職場環境、（３）地域社会との連携、推進の３つの方針に対し取り組んで参りました。

財政基盤の確立において、在宅事業部門は１年を通して目標達成及び近い実績で推移していき、安定した事業運営ができましたが、施設内事業については上期・下期に発生した２回のクラスターにより、入所、通所の経営面に大きな影響を与えました。また、物価高騰、施設の老朽化に伴い、設備修理等の費用増加などで支出も増加し、全体として目標値と大きく乖離する厳しい結果となりました。

2025年度は経営課題を明確にし、改善策を具体的・計画的に進め、強い意志をもって収益改善を図ります。

人財の育成、確保等においては、慢性的な人員不足が続いていましたが、既卒、新卒者、外国籍採用を順調におこない、必要職種の人員配置が確保できました。

疾患等によって休職者はおりましたが、心身の大きな不調の訴えにより休職、退職につながることはありませんでした。今後も人員不足等の必要時においては、その状況に応じての採用、配置転換をおこなうとともに、働きやすい職場環境作りも、しっかりおこなっていきます。

地域社会との連携等においては、新型コロナが第５類に移行したことを受けて、市内での活動が以前に戻りつつあり、会議、委員会等への参加機会が増え、ほぼ計画通りの回数参加となりました。2025年度においても、引き続き関係福祉団体が実施するイベント活動、会議・委員会等への参加を積極的におこない、地域との連携、関係性を深め「地域の拠点」となるよう取り組んでいきます。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- ・施設運営会議：全体で各事業報告、経営改善にむけての検討。
- ・定例会議（各部署）：経営改善や業務の効率化に必要な課題の明確化・検討。

<成果>

目標値達成への進捗状況の確認を行い、経営改善に必要な問題点が明確となりました。

<今後の展開>

年間を通して入所・通所リハビリの収益状況が厳しい結果となったことから、課題を整理し計画的に収益改善をはかっていき、各事業、ブロック全体での黒字化を目指します。

3. 職員状況（3月末現在）

2025年3月31日職員状況

（コミュニティホーム美唄）

- ・医師１名、看護職員１４名（非常勤３名）、歯科衛生士１名（非常勤）、介護職員５２名（非常勤１７名）
管理栄養士２名、相談職員４名、事務職員・施設管理職員９名（非常勤２名）、理学療法士７名、作業療法士２名
清掃職員５名（非常勤）、運転職員６名（非常勤） 合計１０４名（内非常勤３４名）

（すまいる）

- ・介護支援専門員５名、訪問介護員２４名（非常勤２０名）、看護職員２名（非常勤）、介護職員５名
事務職員５名（非常勤１名）、運転職員３名（非常勤）、作業療法士１名 合計４５名（非常勤２８名）

2024年度職員採用・退職等状況

（コミュニティホーム美唄）

- ・採用：１７名（介護職員１２名、看護職員１名 理学療法士１名、歯科衛生士１名、施設管理職員１名、清掃職員１名）
- ・退職：１２名（事務職員１名、介護職員６名、看護職員１名、理学療法士１名、施設管理職員１名、運転職員１名、
清掃職員１名）

（すまいる）

- ・採用：０名
- ・退職：１名（訪問介護員）

4. 研修参加・実施状況

<全体>

- ・外部研修参加回数：49回
- ・内部研修参加回数：22回

(コミュニティホーム美唄)

- ・外部研修参加回数：37回

新人職員研修会、湊仁会グループリハビリテーション部門施設合同説明会、カスタマーハラスメント対策実務セミナー
役職者昇格時研修会、キャリアデザイン研修会Ⅲ、中間管理職講座、虐待防止研修会、新人フォローアップ研修会
必見！今日から活かせる「介護の快護化」に向けた拘縮ケアと予防！危険物安全協会研修会
効果抜群！ヒヤリハット活動の見直し方セミナー、安全運転管理者講習、ライフプランセミナー
部下のモチベーションを高めるコーチング研修、コミュニケーションスキル研修会、依存防止研修会
役職者のためのメンタルヘルス研修、役職者のためのアサーティブスキル研修会、認知症研修会
令和6年度特定給食施設等従事者研修会、北海道高齢者虐待防止推進研修会（施設編）
役職者のためのアサーティブスキル研修会、認知症研修会、リハビリ合同研修会、認知症ケアリーダー研修会
c a n v a勉強会、健康推進研修会（がんと生きる、働く、伝える）、介護支援専門員等学習会、接遇評価報告研修会
第1回SNS勉強会、認知症ケアリーダー他施設見学、リハビリテーションの知識、成年見人Zoom研修
送迎業務の総合安全管理マネジメント、第2回SNS勉強会、臨床実習指導者ブラッシュアップ講習会

- ・内部研修参加回数：11回

新人職員オリエンテーション採用時研修、口腔研修会、スキンケア（褥瘡予防）と紙おむつ研修会、AED・救命救急
学習会、PPE研修会、誰もが納得できる口腔加算算定、算定率100%を実現した具体的方法、ノロウイルス動画研
修、感染学習会、接遇学習会、事故防止研修会、訴えに関する学習会

(すまいる)

- ・外部研修参加回数：12回

虐待防止研修会、安全運転管理者講習、ライフプランセミナー、依存防止研修会、認知症研修会、リハビリ合同研修会
接遇評価報告研修会、睡眠改善研修会、高齢者虐待研修、第2回SNS勉強会、成年後見人制度、認知症介護者交流事業

- ・内部研修参加回数：11回

生活困窮者について、認定調査を知る研修会、法令研修、パーソンセンタード・ケア学習会、感染症（ノロ対策）学習会
感染症研修、認知症研修、災害時の事業継続計画の必要性和作成について、BCP感染、利用者アンケートについて
感染性胃腸炎（ノロウイルス）

2024度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,470 人</u>	<u>26,997 人</u>
一日平均入所者数	<u>78.0 人</u>	<u>74.0 人</u>
入所待機者	<u>4 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.80</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 市立美唄病院</u> <u>2. 宝崎歯科分院</u>	

【通所リハビリテーション：定員65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>12,150 人</u>	<u>10,494 人</u>
一日平均利用者数	<u>50.0 人</u>	<u>45.5 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>192 人</u>	<u>153 人</u>
一日平均利用者数	<u>0.8 人</u>	<u>1 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.4</u> （要支援1・2を除く）	

2024年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センターすまいる

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>5,506 人</u>	<u>5,727 人</u>
一日平均利用者数	<u>21.5 人</u>	<u>22.5 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.8</u> (総合事業を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>15,313 人</u>	<u>12,607 人</u>
（介護保険外）		<u>3,217 人</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>48.0 人</u>	<u>41.0 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.7</u> (総合事業を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,376 件</u>	<u>2,360 件</u>
（うち介護予防）		<u>338 件</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.8</u> (総合事業を除く)	

【福祉入浴】(自主事業)

延利用者数 1, 8 1 5 人

一日平均利用者数 1 1. 8 人

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業 (L S A)】(受託事業)

対応件数 4, 1 5 6 件

安否確認： 3, 8 3 6 件 相談連絡： 2 7 0 件 健康異変： 1 1 件

ガス漏れ警報器： 4 件 非常呼出： 3 4 件 その他： 1 件)

2024年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

1. 総括

昨年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け利用者・家族に大変迷惑・不便をお掛けした1年であった。老健入所に関しては計画通りに「在宅強化型」移行出来ずに施設全体の経営にも大きな影響があった。1月から「在宅強化型」へ施設類型を上げる事ができた。通所リハに関しては目標値を達成する事ができた。今後も老健施設として入所はもちろん、SS・通所リハ・訪問リハそして訪問看護も含め「在宅支援機能」をしっかりと果たす施設運営を実施する必要があるといえる。そのためにも、コミュニティホーム岩内と岩内ふれ愛の郷の2つの施設が連帯感を持って一体経営強化を継続して実施していきたい。改めて新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症蔓延防止対策が課題といえる。

- 1) 4月より介護職員25名正職員に社員区分変更。また、2024年度補助金を活用し「介護職員宿舎」を整備。2024年4月より職員入居。
- 2) 老健入所は、1月より「在宅強化型」に移行となる。今後も在宅支援施設の役割を果たすためには「在宅強化型」から「超強化型」へステップアップできるシステム（人員も含め）を構築することが重要である。今後もプロジェクト会議・自立支援プロジェクト会議で協議検討していきたい。
- 3) 人員体制・配置基準の問題もあるが、各種加算算定についてはより計画的に算定できるよう調整していきたい。
- 4) 在宅事業部（特に訪問看護・訪問リハビリ）は、目標を達成することができなかったが、地域性もあり必要な事業であるため他事業所とも連携し経営的にも安定した運営に努めていきたい。
- 5) 介護ロボットの使用状況、導入効果について一定の評価を得ている。今後の課題も含め効率的に使用していきたい。
- 6) 喫緊の課題は、人材確保と人材育成である。2024年度は「技能実習生」5名採用。（2025年度は2名採用予定）介護職員は当然であるが、看護職員やリハ職員等の専門職の確保が依然厳しい状況である。安定した職員の確保と年代別の職員育成、そして、働きやすい職場環境作りを推進していきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

1. 「プロジェクト会議」を月1回開催。また、現場職員中心に協議検討する「自立支援プロジェクト会議」も開催。課題等を情報共有することで透明性の保持や可視化することができている。
2. 「プロジェクト会議」ではコミ岩・ふれ愛の連携強化（特に利用者確保）について協議検討実施。

<成果>

- ・ 「プロジェクト会議」で在宅復帰阻害要因等の検証を行い、老健入所は1月から「在宅強化型」へ施設類型を上げる事ができた。
- ・ 定期的に「短期入所療養介護サービス」を利用する方、そして通所リハビリ中心に在宅サービス利用者が定期的にコミ岩の入所サービス利用する方も増加した。
- ・ 昨年より対象者は少なかったが一体経営に向けコミ岩・ふれ愛の職員異動等も効果的に実施できた。
- ・ 加算算定状況や人件費率及び利益率に向けた目標数値の達成度確認等、全職員に周知が図れた。

<今後の課題>

- ・ 今後は稼働率向上も含め「在宅強化型」から「超強化型」へ移行できるよう協議検討していく。
- ・ 「在宅強化型」への移行に伴い現場（介護・看護・リハ・相談）の業務負担増がみられるため業務の見直し改善、そして多職種連携が必要。
- ・ 長期にわたり人材不足が続いていることは喫緊に課題である。効果的な募集・離職防止対策等を推進していきたい。
- ・ 感染症含め、自然災害・介護事故におけるリスク管理体制の強化。ICT化により業務改善の強化

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況 <入所・DC・包括・居宅・訪問看護>

医師2名（非1名）、療法士15名、栄養2名、看護23名（非・嘱・派10名）、相談4名、介護62名（非・嘱10名）、CM5名（非2名）、事務7名（非1名）、施設管理1名、運転9名（非9名）、介護補助17名（非17名）【合計：147名】

○2024年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用：25名【介護16名、看護3名、PT1名、OT1名、事務2名、介護支援専門員2名】

退職：30名【介護17名、看護7名、事務2名、包括1名、栄養士1名、PT1名、ドライバー1名】

異動：6名【ふ→岩2名(CW)、白→岩1名(CM)、岩→白1名(NS)、岩→ふ1名(CM)、岩→敦1名(OT)】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（溪仁会グループ・キャリア支援主催研修含）参加者延86名（2023年度77名）

中堅管理者研修、接遇研修、終末期リハ研修、認知症初期集中支援研修、施設看護師専門研修、介護福祉士実務者研修、その他

○施設内研修開催回数14回（2023年度12回）

緊急時対応研修、ケアプラン研修、身体拘束廃止研修、事故防止研修、感染対策研修、事故対策研修、その他

○岩内コミュニティの丘合同研修開催回数14回（2023年度14回）

介護現場におけるリスクマネジメント研修、老健在宅強化型に向けて、オムツのあて方研修、その他

2024年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>35,949 人</u>	<u>34,414 人</u>
一日平均入所者数	<u>98.5 人</u>	<u>94.3 人</u>
入所待機者	<u>4 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.4</u>	
協力医療機関	： <u>1. 岩内協会病院</u> <u>2. 済生会小樽病院</u> <u>3. 朝里中央病院</u> <u>4. 中村歯科医院</u> <u>5. 西崎歯科医院</u>	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>10,334 人</u>	<u>10,652 人</u>
一日平均利用者数	<u>42.5 人</u>	<u>43.7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.35</u> （要支援1・2を含む）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>576 人</u>	<u>923 人</u>
一日平均利用者数	<u>2.3 人</u>	<u>3.7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.15</u> （要支援1・2を含む）	

【地域包括支援センター】

延相談件数： 222 件

相談内容

介護サービスの利用： 89 件 代行申請： 38 件
 認知症： 10 件 入所を含む施設関連の相談： 1 件
 生活支援： 2 件 高齢者虐待（疑い含む）： 2 件
 医療、体調、情報提供： 36 件 介護予防・リハビリ： 7 件
 その他： 37 件

会議・事業の開催、参加等

	(主催・共催)	(参加)
役場包括連絡会議	<u>4</u> 回	<u>4</u> 回
センター会議	<u>12</u> 回	<u>12</u> 回
地域ケア会議（個別処遇会議）	<u>3</u> 回	<u>3</u> 回
自立支援型地域ケア会議	<u>3</u> 回	<u>3</u> 回
虐待対応ケース会議	<u>1</u> 回	<u>1</u> 回
居宅・包括連絡会議	<u>3</u> 回	<u>3</u> 回
民生福祉委員協議会		<u>3</u> 回
運営推進会議（包括、その他）	<u>1</u> 回	<u>5</u> 回
医療と介護連携推進に向けた関係機関との会議	<u>10</u> 回	<u>10</u> 回
街づくり検討委員会	<u>1</u> 回	<u>1</u> 回
介護予防教室	<u>14</u> 回	<u>14</u> 回
はっらっ元気塾	<u>12</u> 回	<u>11</u> 回
介護予防普及啓発活動など		<u>9</u> 回
認知症カフェ	<u>3</u> 回	<u>3</u> 回
認知症施策推進に向けた会議	<u>14</u> 回	<u>14</u> 回

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	委託プラン
・要支援（予防給付）	<u>42</u> 件	<u>1269</u> 件	<u>3</u> 件
・予防ケアマネジメント（総合事業）	<u>20</u> 件	<u>578</u> 件	<u>3</u> 件

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>4, 1 3 1 回</u>	<u>4, 2 2 5 回</u>
(うち介護保険外)	<u>8 5 0 回</u>	<u>7 8 6 回</u>
一日平均利用者数	<u>1 9. 0 人</u>	<u>2 0. 6 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1. 1 0</u> (要支援 1・2を含む)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>4 9 8 件</u>	<u>4 4 8 件</u>
(うち介護予防)		<u>0 件</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1. 7 9</u> (要支援 1・2を除く)	

2024年度 事業報告

施設名：青葉ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

2024年度は、コロナ禍が一般的には明けた年であったが、デイサービス利用者数の回復ができないまま終わってしまったことが経営的に大きい。5/8～6/14に通所介護の利用者が17名、職員が10名コロナ感染し罹患した。状況を見ながら休業せずに営業を継続したが実利用者数の減少でアベレージは2024年度を通して大きく予算とかけ離れる結果となった。

2023年後期に経営改善に更なる魅力向上の為、「カラオケルームのオープン」、「短時間利用の強化」、「AIによる身体機能、口腔機能の評価」を実施し2024年度は確実に定着しカラオケルームの評判も良くAIの力を活用しながら、口腔機能向上加算の算定が定着した。

2024年度末には機能訓練スペースの充実が出来て3種類の油圧トレーニング機器と脳の活性化を促す「コグニバイク」を追加配置しリーフレットを作成し営業活動を展開することができた。新規利用者はコンスタントに獲得しながらも、目標の実利用者、平均利用者数には届かなかった。しかし、2024年度は確実にサービスの質の向上を図り地盤固めができ、2025年度に向けステップアップするための年となった。

<訪問看護>

2024年度新規利用者は、2.9名/月（看護2.4名、リハビリ0.5名）【前年：3.5名/月（看護2.4名、リハビリ1.1名）】と2023年度より減少。入院や施設入所などによる休止や終了と併せて訪問件数が伸び悩む結果となった。要因としては管理者を含む訪問看護師の退職が続き新規利用者の獲得が出来ないことも原因の一つであった。ただ医療での訪問は予算を達成し引き続き医療度の高いご利用者の相談も継続していたが訪問看護全体では予算が未達であった。今後も利用者の全体割合が介護保険2、医療保険1の割合で調整していきたい。2025年度のはじめはまだ人手不足は解消できないが、管理者、役職者も一新し入職者も加わり新規利用者の獲得を目指し、医療機関や居宅介護支援事業所との連携強化に努め、収益の安定とサービスの質の向上を目指したい。

<小規模多機能>

2024年度の実績は、予算未達に終わってしまい、アベレージが26.1名と2023年度より1.3名減少であった。入院、入所等による中止も多く又、新規の相談も減りアベレージ低下につながった。また、要支援者の登録が多く1人当たりの単価も下がり経営的に大きく影響してしまった。2025年度は、ご利用者の要介護度の見直しや泊り利用を維持することで安定した運営を目指したい。生産性向上加算、認知症加算等の加算についても取得できるものは積極的に算定していく。又、法人内、厚別区内の介護老人保健施設と連携をしながらご利用者の都合に合わせた往復利用の対応をしていきたい。

(今後の展開)

2025年度においては、新規利用者の獲得に全力を挙げる。営業活動、広報を強化しながらサービスの質向上、職場環境の改善、健康経営を意識した衛生管理体制強化に取り組む。また、ご利用者・ご家族への接遇はもちろん、来客者や職員同士の接遇強化にも取り組む。介護保険ソフトについてもさらに積極的な活用の継続を実施し、生産性の向上やペーパーレス等による経費削減にも取り組む。これらを総動員して「何としても赤字体質からの脱却」を実現させたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- 運営会議（毎月1回）：3事業所全体の経営改善にむけての検討。参加者：センター長、各管理者（通所、小規模、訪問看護、経理）
- 各部署経営改善プロジェクト（通所、小規模、訪問看護）：各事業所内での経営改善にむけての検討、
- 地域活動への参画（青葉地区介護予防健康フェアへ看護師、理学療法士、社会福祉士等の派遣）

<成果>

- 各事業所間で連携をはかり、利用者の獲得につなげることができた。
- 各事業所間での情報共有をおこなうことにより、経営上必要な課題点が明確になってきた。
- 情報共有をおこなうことにより、お客様や各事業所担当者に対しての早期対応、また業務の効率化をはかっていくことができた。

<今後の展開>

- 新規利用者獲得のための営業活動強化と広報活動の充実を目指していく。
- 青葉ハーティケアセンター内での連携を高め一貫したブランド価値の向上を目指し営業活動、広報活動を行っていく。
- 3事業所の連携を密に利用者の情報を共有し新たなニーズを掘り起こしサービスの展開を行う。
- 職員の接遇の強化を図り利用者の利用満足度の向上と安定的な利用の獲得を目指す。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況

- ・生活相談員：2名
- ・介護支援専門員：1名
- ・看護職員：10名（内非常勤職員4名）
- ・理学療法士：3名
- ・作業療法士：1名
- ・介護職員：22名（内非常勤職員8名）
- ・事務職員：3名
- ・運転職員：2名（内非常勤職員2名）
- ・合計：44名（内非常勤職員14名）

○2024年度職員異動状況（出向者含む）

- ・採用：7名（介護職員3名、看護職員2名、作業療法士1名、運転職員1名）
- ・退職：8名（介護職員1名、看護職員3名、作業療法士1名、理学療法士1名、運転職員2名）

4. 研修参加・実施状況

○青葉センター全体

BCP（災害）訓練、研修6名

○通所介護

介護保険改正研修（内部）8名、接遇研修（社福）8名

認定調査研修会（社福）1名、認知症ケアリーダー研修（社福）1名、

感染症対策10名、高齢者虐待防止6名、BCP（感染症）10名、BCP（災害）1名

○訪問看護

接遇研修9名、感染症・食中毒の予防、及び蔓延防止に関する研修9名、認知症ケア研修9名

診療報酬改定についての研修9名

役職者のための業務改善研修会計3回1名、在宅支援者向けの心不全研修1名、かかりつけ医のための脳神経内科疾患について
医療用テープと基本的スキンケアについて1名、血液疾患について

○小規模多機能

接遇研修会1名、感染症研修1名、心肺蘇生、AED研修10名、認知症について考える1名、身体抑制研修14名、

高齢者虐待防止研修1名、事故防止研修会1名

○経営管理課

介護ICTとケアプランデータ連携システム1名、高齢者虐待防止セミナー1名、溪仁会グループ職員合同研修会1名、
溪仁会グループ幹部職員セミナー1名

2024年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型40名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>8,930 人</u>	<u>7,448 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>29.0 人</u>	<u>24.2 人</u>
要介護度状況 一般型	： 平均要介護度 <u>1.8</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>6,590 回</u>	<u>5,864 回</u>
（うち介護保険外）	<u>1,653 回</u>	<u>1,876 回</u>
一日平均利用者数	<u>27.2 人</u>	<u>24.0 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.3</u> （要支援1・2を除く）	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊7名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,435 人</u>	<u>9,578 人</u>
※延通い利用者数		<u>3,820 人</u>
※延宿泊数		<u>1,313 人</u>
※延訪問数		<u>3,026 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.5 人</u>	<u>26.2 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.3</u> （要支援1・2を除く）	

2024年度 事業報告

施設名：円山ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

上期に関しては安定した収益を確保する事ができた。下期に関しては感染症の流行、3月には12名もの休止・終了ご利用者がありアベレージ低下に繋がった。早期に改善するよう営業等に努めている。(体験利用：月平均9.1名、新規利用：月平均6.0名)行事等通常に行っており、当日休み等軽減に寄与している。

<今後の展開>

近隣専門学校との交流等地域への広報活動に注力し、一般の方やケアマネジャーに施設の存在を広く知っていただく。近隣の専門学校との交流や実習生の受入れについても継続し地域交流活動を強化していきたい。引き続きセラピスト2名配置を継続し幅広いリハビリのニーズに対応できる通所介護である事を発信していく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○円山HCC運営会議：毎月1回：経営課題の検討、事業方針や方向性の検討。

参加者：円山HCCセンター長、DS役職者

○通所介護運営会議：毎月1回：感染対策、業務の効率化、経営改善にむけて検討

参加者：管理者、役職者、看護職員

<成果>

○感染対策として看護職員とも連携し業務上でのリスクの洗い出し、対策の強化を図ることができた。

○情報共有をおこなうことにより、ご利用者やご家族、各事業所担当者に対しての早期対応、また、業務の効率化を図っていくことができた。

<次年度にむけて>

○職員定着を強化する為、心理的安全性の確保を意識してハラスメントの根絶や労働環境の整備について検討。

施設の健康課題について検討。

○デイサービスは集客に向けてしっかりと営業・広報活動を行うと共にリハビリニーズへの対応や接遇の強化を行う。

○介護ソフトの入替、タブレットの導入による業務効率の客観的な評価を行う。

ICT化に積極的に取り組み、業務体制の見直しと効率化、定着化を図る。

3. 職員状況（3月末現在）

○2025年3月31日職員状況

- ・管理者：1名、生活相談員：2名、看護職員：5名（常勤3名、非常勤2名）2名産休予定
- ・言語聴覚士：3名（常勤1名、非常勤2名）1名産休中、作業療法士：1名（非常勤）
- ・介護職員：20名（非常勤8名）、運転職員：4名（非常勤）、清掃職員：2名（非常勤）、事務職員：1名（非常勤）
- ・合計：39名（非常勤19名）

○2024年度採用・退職者状況（出向者含む）

- ・採用：常勤3名、非常勤8名（看護職員2名 介護職員3名、言語聴覚士2名、運転その他職員4名）
- ・退職：常勤1名、非常勤5名（介護職員4名、運転その他職員2名）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修：虐待防止研修、認知症研修、OJT研修、接遇研修、衛生管理研修、健康経営研修、認知症実践者研修

○内部研修：入浴介助研修、感染防止研修、虐待防止研修、接遇研修、防災研修、BCP研修、認知症研修

2024年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型80名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>18,322 人</u>	<u>17,968 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>59.1 人</u>	<u>58.0 人</u>

要介護度状況 一般型 : 平均要介護度 1.76 (要支援1・2を除く)

2024年度 事業報告

法人本部

1. 各部・課の活動状況

●経営管理部

【財務課】

- ・理事会（6月・7月・10月・1月・3月）、評議員会（6月）の開催
- ・経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・各種補助金の請求等の支援
- ・定款変更等行政に対する認可申請事務
- ・経理規程の改正
- ・決算・予算及び各月次確定財務諸表作成事務
- ・財務諸表等電子開示システム活用による行政等への申請（6月）
- ・各種会議への参加、他
- ・改正社会福祉法に関する会計監査人による会計監査の実施（期末5月、中間11月・12月）
- ・監事監査の実施（6月・7月・10月・1月・3月）

【情報システム課】

- ・介護DXの推進
- ・老朽化したネットワーク機器の更新
- ・溪仁会ネットワークセキュリティリスクの洗い出し
- ・全施設でアマゾンビジネス利用開始

【購買担当】

- ・2025年度からの北海道電力との電気需給長期契約（3年）内容の見直しにより年間9,400千円の削減（3年総額28,200千円削減）

●総務人事部

【総務担当】【総務課】

- ・人事検討会議の開催（11回開催）
- ・人事評価制度の定着と活用の推進
- ・法人広報による魅力発信
- ・キャリア向上のための資格取得支援
- ・障害者雇用の推進と理解の浸透
- ・技能実習生・特定技能・留学生・在留資格介護の外国籍人財の受入支援
- ・人事総務内部監査の実施（八雲、美唄、すまいる、青葉）
- ・処遇改善計画書等の申請等の支援
- ・受託業務の申出・契約・請求等の支援
- ・キャリアアップ助成金の申請等の支援
- ・就業規則、給与規程等の改正
- ・職員の定数管理
- ・時間外勤務状況の管理
- ・年次有給休暇取得状況の管理

【キャリア支援担当】【キャリア支援課】

- ・研修会・受験対策講座の開催

法人本部主催のテーマ別研修会	（ 9回：参加者 延 410名）
接遇アドバイザー研修会および接遇評価報告	（ 2回：参加者 延 48名）
新入職員研修会	（ 2回：参加者 延 48名）

中堅管理職講座	(5回：参加者 延 65名)
役職者昇格時研修	(1回：参加者 延 11名)
受験対策講座	
○介護支援専門員受験対策講座	(2回：参加者 延 20名)
○介護福祉士受験対策講座	(2回：参加者 延 16名)
★合計	(23回：参加者 延 618名) (前年比27名増加)
内オンライン（テレビ会議・Zoom）による参加	(延 287名)
・ストレスチェック受検支援：受検率83.7%	

●事業推進部

- ・ 溪仁会在宅事業グランドデザイン作成に参画
- ・ 社会福祉法人合併による事業承継のための交渉、実施事項・スケジュール管理
- ・ 他法人が運営する通所介護事業廃止に伴う利用者、職員受け入れ対応、契約内容確認
- ・ 居宅介護支援事業所の在宅ワーク推進、担当件数によるインセンティブ制度導入
- ・ 老健上位類型取得・維持支援
- ・ 稼働率向上のためのアクションプラン作成支援
- ・ 介護報酬改定、新規・上位加算項目の早期取得に向けた働きかけ、医療法人との連携体制の構築
- ・ 各加算の取得状況、未算定項目の取り組み状況、算定スケジュールの管理
- ・ 科学的介護の推進支援（LIFE関連加算の算定状況管理とフィードバック情報の活用状況の確認）
- ・ 介護ロボットの補助金申請、導入支援
- ・ 介護DXの進捗状況管理（記録用タブレット、センサー、インカムの活用状況）
- ・ ICT化による業務改善の推進支援（請求書、領収書をスマホで確認するアプリ導入）
- ・ 特養待機者の管理・共有
- ・ 特養、老健における入院理由、退所理由の管理・分析
- ・ 看護管理者会議の企画・開催（3回／年）
- ・ 相談職責任者会議の企画・開催（3回／年）
- ・ 通所介護管理者会議の企画・開催（2回／年）
- ・ 小規模多機能居宅介護管理者会議の企画・開催（2回／年）
- ・ グループホーム管理者会議（1回／年）
- ・ 訪問介護管理者会議（1回／年）
- ・ 居宅管理者会議（2回／年）
- ・ 介護予防センター全体会議の企画・開催（1回／年）

【リハビリ担当】【リハビリ課】

- ・ 法人リハ代表者会議（11月）
- ・ リハビリ課定例会議（12回／年）
- ・ 溪仁会グループリハ責任者会議（毎月）
- ・ 溪仁会グループリハ研修委員会（隔月）委員2名
- ・ 老健リハ会議（6・12月）
- ・ 特養リハ会議（6・12月）
- ・ 訪問系リハ会議（8月・2月）
- ・ 通所介護リハ会議（7月・1月）
- ・ ST合同会議（6・12月）
- ・ 養成校の就職説明会（オンライン・情報提供・リクルート用動画の活用等）参加
- ・ 養成校への求人、職能団体への募集広告活動実施、リクルート用動画を施設のホームページに掲載し活用中
- ・ 高校生向けの修学資金貸付制度は該当者なし
- ・ 溪仁会グループ新人職員病院施設合同説明会（5月）
- ・ 北海道作業療法学会で、白石から3演題発表（6月）
- ・ 全国デイケア大会で、白石から3演題発表と査読と座長を対応（6月）

- ・ 溪仁会グループ合同研修会（対面・オンライン）、社福リハ職20名参加（10月）
- ・ 溪仁会グループリハ交流研修は、今年度は中止
- ・ 社福溪仁会リハ合同研修会「介護保険領域のクリニカル・リーズニング」43名参加（9月）
- ・ コミ白石リハ研究発表会（3月に2日間・計8演題）
- ・ 施設間の異動や人員の調整（異動者1名）
- ・ 言語聴覚士派遣（1～2回／週から1～2回／月）：敬樹園、月寒、手稲、菊水、きもべつ、るすつ、美唄
- ・ 作業療法士派遣（1回／月）：きもべつ、るすつ
- ・ 生活機能向上連携加算／毎月
特養：敬樹園、月寒、手稲、菊水、きもべつ、るすつ、ふれ愛
DS：円山、つむぎ、織彩、月寒、あおば、すまいる
各連携セラピストが対面により実施
- ・ ST合同会議から、MASA、MMASA（嚥下障害アセスメント）の運用継続
- ・ 溪仁会グループ研究発表会：社福のリハ職4演題発表
- ・ 法人リハ職の新人研修プログラム（オンライン／対面）を約30コマ実施：既卒者4名対象
- ・ 各施設リハ部門の内部研修の水平展開
- ・ 毎月の現況報告による各施設・事業所のリハ職の常勤換算数と情報収集
- ・ リハ関連加算の推進
- ・ 訪問系リハ事業の拡大
- ・ 実習受入施設の拡大と臨床実習指導者講習会に参加（4名）
- ・ 地域での他職種向け研修会、介護予防教室、地域ケア個別会議、地域ケア推進会議等への派遣

【栄養管理課】

- ・ 今年度から社福の栄養士が研究発表会のプログラム委員担当
- ・ サラネット原稿担当（2024年夏号）
- ・ 厨房修理対応業者確認及び、土日祝対応の一括申請（ホシザキ北海道株式会社）（5月）
- ・ 喜茂別喜らめきの郷業務調査（5月）
- ・ 栄養部門責任者会議（医療法人溪仁会法人本部主催）7回（5・6・8・10・12・1・3月）参加
- ・ 経費削減の為に検食実施調査（7月）
- ・ 業務量把握の為に管理栄養士タイムスケジュール調査（8月）
- ・ ケアフード札幌参加（9月）新給食システムの講演
- ・ 日本栄養食品展示会（9月）災害備蓄調査
- ・ シン食事サービス一部導入（6月）完全移行（10月）*委託先日清医療食品
- ・ 委託業者契約内容の相談（栄養業務面）
- ・ 施設栄養士へのサポート（相談窓口）
- ・ 介護報酬の栄養関連加算取得の把握（各施設からの月報取り纏め）
- ・ 施設入所者の低栄養状態リスク者の把握
- ・ 栄養補助食品の統一購入に向けての価格調整
- ・ スキルアップのための研修情報提供
- ・ 単独通所事業所栄養アセスメント加算取得にむけ情報収集及び打合せ開始（8月手稲見学・9月青葉打合せ）
- ・ 介護休暇代替え業務（10／28～11／22）
- ・ 栄養管理者会議（11月）

【介護課】

- ・ 介護職員の採用活動支援（養成校との連携、実習生の受け入れ強化）
- ・ 介護人財定着支援
- ・ 介護職員の施設間交流・報告会の企画・実施
- ・ 介護技術向上に向けた支援
- ・ 介護責任者会議の企画・開催（4回／年）
- ・ ICT化による介護現場の生産性向上推進
- ・ 介護職の専門性を確立するための取組支援

- ・新入介護職員研修、フォローアップ研修の企画、実施
- ・介護職キャリアラダーの作成、運用支援
- ・認知症実践リーダー研修の受講状況の管理
- ・認知症ケアリーダー育成に向けたプログラム実施(会議、研修、学会参加、勉強会)
- ・介護関連加算の取得状況の管理
- ・人員不足施設に対する応援支援
- ・事業承継予定施設に対する応援支援

●業務管理部

- ・監督官庁運営指導（監査）立会い（9事業所）
- ・法令遵守に関する支援（運営基準への対応：内部監査6拠点訪問、自己点検6拠点提出）
- ・本部発信による介護保険サービスの事業所評価（自己評価）を実施、自己評価結果を水平展開
- ・行政宛事故報告確認（監督官庁宛報告152件）、年2回（上半期・年間）集計結果を報告・水平展開
- ・事業所宛て苦情・要望確認（年間46件）、年2回（上半期・年間）集計結果を報告・水平展開
- ・苦情対応に関する個別支援（対応相談、顧問弁護士仲介）
- ・第三者委員との情報交換（四半期ごとに報告）
- ・ハラスメント根絶に関する取り組み（カスタマーハラスメントへの対応実施、第4回パワハラ実態把握調査）
- ・KMS推進支援（KMS会議参加・KMS内部監査対応・ISO維持更新審査対応・個人情報保護分科会参加）
- ・法定研修受講の仕組みづくり（採用時研修の統一企画に参加）
- ・職員からのコンプライアンス相談に関する個別支援（対応相談）
- ・新型コロナウイルス感染症に関する事項（クラスター発生施設の感染情報収集・支援）